

はじめに

豊中市立少年文化館は、子ども文化の向上と健全育成をねらいとして、平成元年(1989年)に庄内、平成14年(2002年)には市立婦人会館を転用する形で千里に、それぞれ開設しました。「未来に生きる子どもたちが、健やかで心豊かに育つように」との願いをこめてつくられた施設です。

少年文化館の機能移転統合の動きについては、平成30年度(2018年度)に第2回政策会議、12月議会を経て、青年の家いぶきへの移転が決定されました。千里少年文化館では、令和2年度(2020年度)に「創造活動事業」のうちのプログラム活動(グループ活動)を庄内少年文化館に移し個人援助のみの活動とし、令和3年度(2021年度)には千里少年文化館を廃館、少年文化館の機能を庄内少年文化館の一館に集約しました。

そして、令和4年(2022年)4月1日に、当館は青年の家いぶきとの移転統合を果たし、少年文化館33年の歴史に幕を閉じました。今後は、これまで培ってきた不登校支援の本質を継承しつつ改称された「青少年交流文化館いぶき」において、今日的課題に対応すべく新たな事業を展開していきます。

さて、令和3年度(2021年度)の当館の取組みとしましては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前年度に引き続きアクリル板の設置、マスクの着用、手指消毒や検温の徹底などを行い、当館の運営や事業のすべてに影響が及びました。そのような中、一部内容を縮小又は変更しながらではありますが、職員の創意工夫により、これまでどおりの事業を実施することができました。

「創造活動事業」では、不登校児童生徒に「時間・空間・仲間」の三間を保障し信頼関係を構築していく中で自己肯定感を育み、社会で自立していくための援助を行いました。創造活動スタッフによる部分登校支援を小学校にて引き続き実施しました。

「寄り添い型学習支援事業」は、経済的困難等を抱える中学3年生を対象に学習支援を行いました。子どもたちそれぞれの進路が決まり、自分の道をしっかり歩み始めています。

「子どもの居場所づくり事業」は、ラジオDJ講座を新たに取り入れ、日曜日や長期休業中の地域において、子どもたちを健やかに心豊かに育てていく場を提供しました。親子で行う講座等では、親子の楽しい活動のひとつともなりました。

「スクールソーシャルワーカー活用事業」では、学校と協働しながら、引き続き校内支援体制の構築をすすめました。定期的派遣校が30校とさらに拡充され、よりきめ細やかな支援につながりました。今後も学校における専門家活用が有効に機能するよう、事業の充実に努めていきます。

ここに令和3年度(2021年度)の少年文化館の活動報告がまとまりました。ご高覧いただき、ご指導いただけましたら幸いに存じます。

旧豊中市立少年文化館
館長 久住 浩一